



TRY SHOWA

甲府昭和高校通信

山梨県立甲府昭和高校
 令和3年9月1日
 第59号発行
 電話 055-275-6177
 FAX 055-275-2594

URL <http://www.syowah.kai.ed.jp/>

第38回 紫映祭

令和3年 6月24日(木)・25日(金)・26日(土)

第38回紫映祭は、新型コロナウイルス感染対策を十分に施しながら、実施をしました。六つの縦割り団の団長を中心に、全校生徒711名一丸となる感動の学園祭を作り上げることが出来ました。

テーマ Re TRY



団長気合い全集中



1日目 運動会 (小瀬スポーツ公園体育館)



エキサイティングウエーブ



綱引き



長縄跳び

2日目 開祭式・文化部発表 (YCC県民文化ホール)



演劇部発表



ダンス部発表



箏曲部発表



吹奏楽部発表

3日目 校内展示・閉祭式(本校)



クラス企画(3年)



似顔絵



窓絵(2年)



スタンドグラス(1年)



書道パフォーマンス



中庭出店



クラス新聞



モニュメント

紫映祭で身に付けた「力」

～生涯に渡って、「挑戦し続ける力」～



生徒会長
笹本 丈太
 (3年 甲府西中)

私は生徒会長という立場なので、常に全校生徒の先頭に立ち、自ら考え行動する「主体性」を意識し、学園祭を運営しました。今年の紫映祭はコロナ禍の中での実施のため、制限される部分が多くあり、企画段階からこの状況下の中で最高のパフォーマンスが発揮できるように、意見を出し合い、少しずつ形を作り上げていきました。途中で開催中止も懸念される中で、計画通り無事に3日間やり遂げられたことは、私たち全校生徒にとっても貴重な経験となり、これから歩む道での自信に繋がっていると確信しています。



紫映祭実行委員長
秋山 雅治
 (3年 甲府西中)

私は紫映祭実行委員長として、後輩たちに紫映祭を掛け渡していくことを意識しながら、取り組みました。コロナ禍の中で、まず安全を第一優先として、なおかつ出来る限り従来の紫映祭に近い形で開催できるように企画を考えました。実行委員の各部門と生徒会がスムーズに連携したり、3年生を中心に縦割り団の後輩たちを指導しながら、団の一体感を強く感じることに、「協調性」「コミュニケーション能力」を養うことが出来ました。紫映祭成功で得た自信と身に付けた資質・能力を今後の社会生活に活かしていきたいと思えます。

1年生2名にインタビュー

甲府昭和高校の魅力は何ですか？

この4月に甲府昭和高校に入学した笠井文愛さんと小林春瑠さんに、高校生活の印象や甲府昭和高校の魅力について自由に語ってもらいました。二人とも昭和町立押原中学校出身で、部活動は吹奏楽部です。



笠井 文愛

かさい あやな

押原中学校
起床 就寝 6:30-23:00
数学
国語
2時間 (課題・試験対策)
文武両道で 部活動がとても盛ん

氏名

出身中学校

起床・就寝

得意科目

苦手科目

家庭学習時間
(平日平均)

甲府昭和高校の
好きなところ

小林 春瑠

こばやし はる

押原中学校
起床 就寝 6:30-23:30
国語
英語
2時間 (復習・課題)
穏やかで 優しい生徒が多い



Q. 甲府昭和高校を志望校に決めた時期はいつですか？

笠井 中学1年生の時です。自宅が昭和町で、地理的に近かったところと、私の父が、甲府昭和高校の卒業生で、父からも勧められました。

小林 中学3年9月の第1次進路希望調査の時期です。進学したい高校がいくつかありましたが、押原中学校の1学年上の吹奏楽部の二人の先輩から、吹奏楽部に入部を勧誘されて、決めました。

Q. 中学時代の甲府昭和高校のイメージはどうでしたか？

笠井 「いじめがない」高校という周囲の評判でした。よく押原公園に大きいリュックを背負った部活動の甲府昭和生の集団がやって来て、練習をしているのを目にし、部活動が盛んな学校だなという印象でした。

小林 制服が印象的でした。ストライプのブラウスがとても目に付きまして。高校の近くに行くと、グラウンドから部活動の生徒の大きな声が聞こえてきて、部活動が熱心な高校だなという印象がありました。

Q. 実際に入学して、甲府昭和高校の良いところは何か？

笠井 学園祭や部活動などで先輩との関わりが多く、先輩がとても優しいところです。マスコットキャラクターがいて、学校生活が楽しくなります。頑張っている姿を認めてくれる先生方や生徒が多いのも魅力です。

小林 生徒がみな穏やかで優しい点です。授業中などとても落ち着いています。先生方は、個性的な先生が多く、授業も充実しています。イトーヨーカドーが近くにあり、放課後の買い物が便利です。

Q. 中学と高校の相違点は何ですか？

笠井 基本的な生活リズムは変化はないです。制服着用など生活指導は違うところもありますが、中学との違いはあまり感じません。授業科目が、選択制で生徒により違うことは驚きました。

小林 部活でも授業でも先生中心から生徒中心に変化しましたが、あまり極端な相違点は感じません。ただ、給食から弁当になったところはとても大変になりました。

Q. 高校の授業の印象はどうですか？

笠井 難易度が高くなりました。中学校は、導入部分から段階を踏んで、少しずつ難易度が上がるように授業をしてくれますが、高校は、最初から一気に難易度が上がり、進度も速く、分からないところは、その都度解決していかなければなりません。

小林 難易度がとても高いです。中学校は、板書を書き写す授業が中心ですが、高校は授業中にメモを取って、それを家でまとめるような授業です。覚えるよりも、考える授業が多い印象です。また、友だち同士の話し合う場面がとても多いです。

Q. 先日のお祭り(紫映祭)はどうでしたか？

笠井 縦割りの先輩との関わりが大きいです。中学は演劇や合唱など学年中心の発表でしたが、高校はクラス単位の発表です。縦割り団でお揃いに着用する団Tシャツは中学にはなく、思い出に残ります。

小林 中学では、文化祭や運動会共に学校の敷地内で行いましたが、高校は文化ホールなど別会場で実施するのがとても新鮮でした。クラス別にお店を出して、お祭り気分を味わえました。

Q. 将来の希望は何ですか？

笠井 理系クラスに進級し、薬剤師か臨床検査技師になることが将来の夢です。

小林 文系クラスに進級し、中学校の教員か音楽教室の講師になることが将来の希望です。

Q. 最後に、中学3年生に高校受験のアドバイスをしてください。

笠井 分からない問題があったら、必ず友だちや先生に質問すること。そして、重要なことは、その教えてもらったことを、今度は自分でもう一度解くことです。そうすると力として身に付けることができます。頑張ってください。

小林 入試過去問題をたくさん解くことです。そして、今自分が何が分からないのか出来ないのかをピックアップして認識することが大切です。そして、その問題を何度もやり返すことです。健闘を祈ります。

